

6. 増養殖技術研究費

1) ウツセミカジカ養殖における大型魚養成

的場 洋

【背景】琵琶湖漁業の未利用資源であったウツセミカジカが、ゴリ料理の材料としてカジカの市場で一部流通するようになり、漁業振興上有望な魚種となった。しかし、市場は限られており新たな流通の拡大が必要となっている。

【目的】本種はこれまでの研究成果から、養殖や加工の対象魚種として利用できることが明らかになった。そこで、さらに湖国での新たな味覚として消費拡大を図るための大型魚の効率的な養成技術について検討を行った。

【成果概要】・供試魚は1995年(平成7年)5月1日からFRP製2トン水槽でスジエビと配合飼料で餌付けし、選別(3.6g/尾)後12月まで飼育(15.6g/尾)し、さらに配合飼料のみで1カ月間予備飼育した。

・飼育は地下水を流水状態にし十分給気をした。供試魚の収容密度は $1.4\text{kg}/\text{m}^2$ 、給餌率は3%とし、3種類の給餌条件を設定した。

・1区：配合飼料のみ、2区：配合飼料＋フィードオイル、3区：配合飼料＋冷凍オキアミとし、配合飼料は日配養アユ用アルファメガ4Cを使用した。

1. 1カ月間の飼育結果は、1区では開始時の平均体重 24.0g から取り上げ時は 29.4g へ、2区では 25.3g から 30.2g 、3区では 22.4g から 25.9g となり配合飼料のみでも十分大型魚の養殖が可能である(表1)。

2. それぞれの肥満度は1区で2.3から2.4へ、2区では2.2から2.4へ、3区では2.1から2.3へと増加し、オキアミを与えた区で増加する傾向が見られる(図1)。

3. 体重の増加については1区と2区との間ではその平均値に有意差は認められず、フィードオイルの添加効果は認められなかった。

【成果の活用】本種は漁獲される体型にばらつきがあるが、選別と適当な飼育密度($2\text{kg}/\text{m}^2$ 程度)によって、市販の配合飼料でも比較的短期間に大型に養成できる。

表1 ウツセミカジカの飼育結果

	1 区	2 区	3 区
開始時重量 (g)	3517.16	3792.71	3356.50
取上時重量 (g)	4408.25	4504.48	3855.87
増重量 (g)	811.09	711.77	499.37
増重率 (%)	23.1	18.8	14.9
総給餌量 (g)	2808	2938	2496
餌料効率	0.29	0.24	0.20
開始時平均体重 (g)	23.98	25.28	22.37
取上時平均体重 (g)	29.39	30.23	25.88
開始時肥満度	2.26	2.24	2.13
取上時肥満度	2.37	2.38	2.29

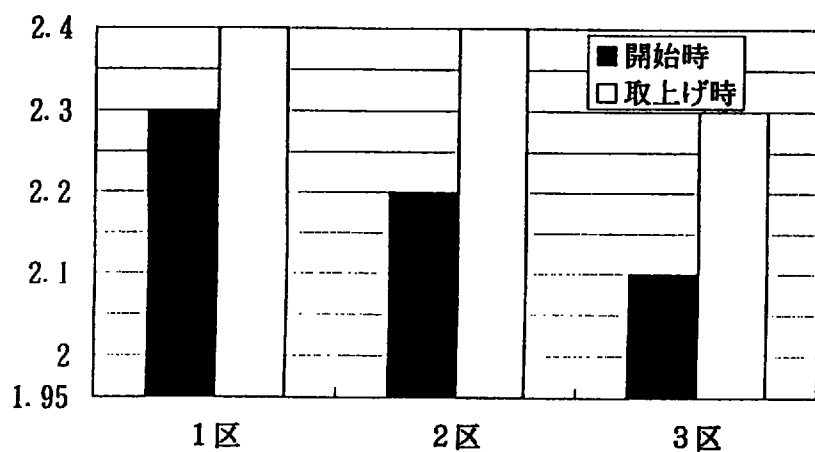


図1 試験期間中の肥満度の変化